

あなたの目の前での変革：舞台上で

ジェリス E. ストレイン

この物語は現代と未来に話しかけると同時に、過去の異なった文化にも通じる現代の変革を示す話、いや、上演である。「親切と親交が高貴なものにする！」

このDVDの劇(クリス ハムプトン作 高貴な盗人、2002 平和のための芸術)で、ハムプトンはある一人の盗人を、周りの見るものすべてを否定するものとして描きます。彼は、あるとき一人のバハイと出会いファイアサイドに招待されますが、その家に泥棒するためにその招待を受け入れます。しかしその出会いで、彼等の礼儀正しさとやさしい親切心とにより彼の中で小さな火花が点火されます。そして二度目のファイアサイドで、バハイの見地に疑問を抱きますが、そこでのバハイの返事は謙虚で親切でした。そして彼が求めている疑問に答えている本を差し出すのです。彼はその本の中に、丁度会合での親交の中で彼が感じたと同じ靈感を見つけます。そのことによってその後、相棒とその家に泥棒に入ったとき良心の呵責のようなものを感じます。親切という思いもなかった贈り物の力により、彼の生活態度は新しいものへと変わっていきます。そして最後には美德の中の最も高貴なものへと変革するのです。

ハムプトンの物語の要約と歌のタイトル(www.artforpeace.com)

『 気高き泥棒 』(The Noble Thief)

幕が開くと、その夜近隣から盗んできた品物をかかえたスチュアートが地下室に登場し、自らと観客に話しかけます。この疑わしい職業に如何に長けた技術を持っているか、また自分のこの行いは生きていくためには仕方がない環境のせいだと正当化します。つまり他人のせいにします。(歌 “他人の責任にする”)

父は、生前彼とほとんど一緒に過ごさなかったと父親への怒りを表し、彼の行いを批判します。腐敗した今の社会の病を、またこの偽善に満ちた物質界を呪います。社会は病んでいて何かを必要としていると訴えます。(歌 “叫び”)

スチュアートはコーヒー店でおもしろい女の子、モナに出会った事をうち明けます。彼女は、彼とは違った世界観を持っていると言い、新しい宗教を学ぶためにファイアサイドにこないかと誘います。スチュアートは、“新しい宗教”などとあざ笑いますが、探求者としてではなく、後で盗みをしようとその家の内部を探るために参加することに決めます。

ファイアサイドから戻ってきて、両腕をひろげ彼を歓迎してくれた様々な人たちのグループのこと、また彼に友好的だった少年がグループのためにお祈りしてくれた(歌 “精神的性質の祈り”)こと等を思い出し、何か妙な感情を抱いたことを話します。彼はモナの父親、ロウハニ氏について話します。ロウハニ氏は、すぐにスチュアートの助言者となり、友好と愛情を示します。しかしスチュアートはこの新しい宗教、バハイ教の正当性を認めることを拒否します。本当の話にしてはあまりにも良すぎるからです。しかし何か不思議な気持ちに捕らわれています。(歌 “もしそれが真実なら”)そこでもう一度モナの家への会合に行くことに決めます。その会合で、彼はこの世の中の批判をし、人生への幻滅を話しますが、それ等すべてに対して、礼儀正しく、謙虚に、忍耐強くそして本と照らし合わせて答えてもらいました。

スチュアートは聞いてきた事に高揚し、一晩中バハイ信教について読み明かします。すると、新しく見つけた真理に喜びと興奮ではち切れそうです。(歌 “信じられますか…”)そして彼は、二度目の会合の後、悪い仲間、トニーと前々からの計画を実行に移し、ロウハニ氏の家に忍び込み盗みをしたことを恥じながら告白します。スチュアートは盗んだ品を並べながら嫌悪感におそわれます。そこでもう二度と人の

物を盗まないことを誓って、そっと盗んだ物を返しにいきます。その後、バハオラの立場について彼にやさしく注意を向けさせていたロウハニ氏の訪問を受けます。彼はスチュアートが一度盗んで返した品物の一つをプレゼントとして持ってきました。スチュアートは深く心を動かされます。(歌 “バハオラ”)

数ヶ月後、スチュアートは活発なバハイとして新しい人生を送っています。そして店の経営者として働いています。彼は亡くなった父親の夢を見たことを話します。父は彼に良い性質を残してくれたと思い、昔の古い傷を癒し始めます。(歌 “あなたの何かが”) スチュアートは突然前の晩ロウハニ氏が亡くなったことを知り心が痛みます。しかし、ロウハニ氏が残してくれたお手本を思い出し、彼の代わりにパイオニアとして出発することを決心します。(歌 “彼の業の実り”)

chris@applemachine.com,<http://applemachine.com/artforpeace.com/>.